

平成25年度 学内研究助成金 研究報告書

研究種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input checked="" type="checkbox"/> 21世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input type="checkbox"/> 21世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	SPAの戦略的優位性に関する実証的研究	
研究者所属・氏名	研究代表者：経営学部 経営学科 教授 浦上拓也 共同研究者：経営学部 商学科 講師 岡山武史	

1. 研究目的・内容

本研究は、日本のアパレル産業に特徴的な垂直統合型のビジネスモデルであるSPAに注目し、その戦略的優位性を公表されたデータを用いて実証的に明らかにすることを目的としている。

2. 研究経過及び成果

本研究では、①アパレル産業のデータおよび先行研究などの資料収集、および②国内アパレルメーカーに対するインタビュー調査、を行った。さらに、研究遂行の過程でSPAとファストファッションのビジネスモデルの違いに対する関心が高まってきたため、両ビジネスモデルと消費者行動に関する分析を行うため、③街頭アンケートを実施してデータの収集を行った。

まず、①の資料収集については、矢野経済研究所が出版する『SPAマーケット総覧』により小売系SPAと卸系SPAの個別企業のデータを入手し、現在分析を行っている。これについてはまた結論が得られていないところであり、早急に分析を進めて海外学術誌に投稿できるよう論文を取りまとめていく予定である。

②インタビュー調査については、セレクトショップからSPAに発展したユナイテッドアローズと、卸系SPAの代表格である三陽商会のそれぞれ本社に伺いインタビュー調査を行った。SPAの戦略的優位性に関する有用な知見が得られたため、今後取りまとめる①の論文の情報源として活用していきたいと考えている。

③のSPAとファストファッションの戦略的違いと消費者行動との関係に関する分析では、学部学生の協力を得て梅田、難波、神戸三宮の街頭で合計300名にアンケート調査を行い、SPAの商品とファストファッションの商品とで消費行動に違いがあるかどうかを、統計的手法を用いて分析を行った。結果として、ファッション感度の高いという結果が出た神戸三宮の消費者においては、統計的に有意にSPAとファストファッションの消費行動に違いが出たことから、それぞれの戦略の意図が消費者に十分伝わっており、企業パフォーマンスに影響していることを明らかにすることができた。この研究成果は学術論文として取りまとめたうえで、平成26年度中にファッションビジネス学会の学会誌に投稿する予定である。

以上、今回の研究プロジェクトにより、現時点で日本語論文が1件完成しているところであり、今後入手できたデータをもちいて、統計的に分析をかけたうえで同じく平成26年度中に英語論文として取りまとめ、平成27年度に海外の学会で報告したうえでしかるべき海外学術誌に投稿することを計画している。

3. 本研究と関連した今後の研究計画

日本のアパレル産業における実証分析はまだ非常に少なく、その意味で、本プロジェクトで取りまとめられた成果は学術的に非常に価値が高いと考えている。今回収集されたデータは今後の研究を進めるうえでも有用であり、さらに視点を変えて分析を加えたうえで次の論文作成につなげていきたいと考えている。また、今回は学内の2人の研究者による研究プロジェクトであったが、学外の研究者との研究交流がはかれているところであり、今後はより規模の大きな調査を視野に入れた研究プロジェクトに発展できるように努力していきたいと考えている。

4. 成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)